

大阪大学図書館報

Vol. 1 No. 2 Nov. 1967.

豊中図書館利用調査

座席だけの利用が大半

本館では今般、図書館利用調査を行なった。以下要旨を報告する。

調査目的 利用者の実態を知り将来の本館運営の参考に資するため。

調査日時 42.9.20 (水) 9.00~18.00 晴

調査日時決定——従来の調査では教養課程工学部2年次生が、東野田地区の専門課程へ移っているため調査対象から外れていたため、今回はこれらの者を対象に入れるべく、前期試験(9月23日~)を真近に控えた日を選んだ。

回収率 入館時に全員に調査表を配り、退館のとき回収した。入館者数 2,568人
回収枚数 2,343枚(白紙90) 回収率 91.2% なお調査項目によっては、更に若干の不回答があった。

調査結果

1. 学 部 別

表 1

	文	法	経	理	医	歯	薬	工	基工	計
利用者数	168	194	291	253	89	56	120	621	399	2,191
%	7.7	8.8	13.3	11.5	4.1	2.5	5.4	28.3	18.4	100.0

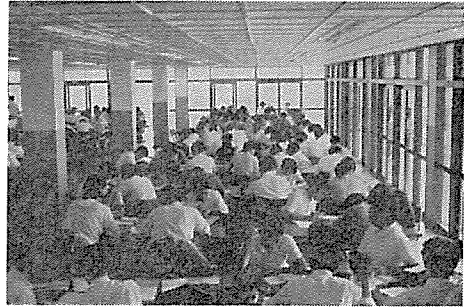
表 1 から読みとれることは

工、基工、経、理の利用者数順位は各学部の学生在籍者数の順位と大体一致する。しかし学部によっては、豊中地区に教養課程のみで専門課程を有していないため、各学部利用者数を教養課程と専門課程に分けなければ正確な比較はできないであろう。

2. 身 分 別

表 2 から読みとれることは
教養課程学生の圧倒的利用である。

学部学生，大学院学生，職員が意外に少ないのは，専門課程が他のキャンパスにある学部もあり，またそれぞれの部局の中に図書施設をもっているなどのためと思われる。



2 階 閱 覧 室

3. 利用目的

表 3 から読みとれることは

(1) 試験前の事情も加わって，**b**(自習) が60%も占めているが，これは図書館活動の上では積極的意味が少ない。

(2) **a** (図書館資料の利用)，**c** (複写)，**d** (所在調査)の利用者数はかなり高い数である。

(3) **e** (その他)の中にはスライド映写6人，マイクロリーダー使用1人がいて，**c**，**d**とともに図書館機能の多様化を暗示していた。

表 2

区 分	人 数	%
教 養 学 生	1,824	82.5
学 部 学 生	329	14.9
大 学 院 学 生	36	1.7
職 員	11	0.5
そ の 他	8	0.4
計	2,208	100.0

4. 利用回数 (週平均)

表 4 から読みとれることは

1週間3回以上の来館者は，合計すると63%となる。これは固定した図書館利用者といえよう。

表 3

区 分	人 数	%
a 図書館資料を利用するため	731	29.4
b 自習するため	1,505	60.6
c 複写	135	5.4
d 図書館資料の有無又は所在調査	41	1.7
e その他	72	2.9
計	2,484	100.0

5. 平均在館時間

表 5 から読みとれることは

1～2時間利用者が最も多く，これは1講義時間(1時間30分)と関係がありそうだ。より詳しい調査が必要である。

表 4

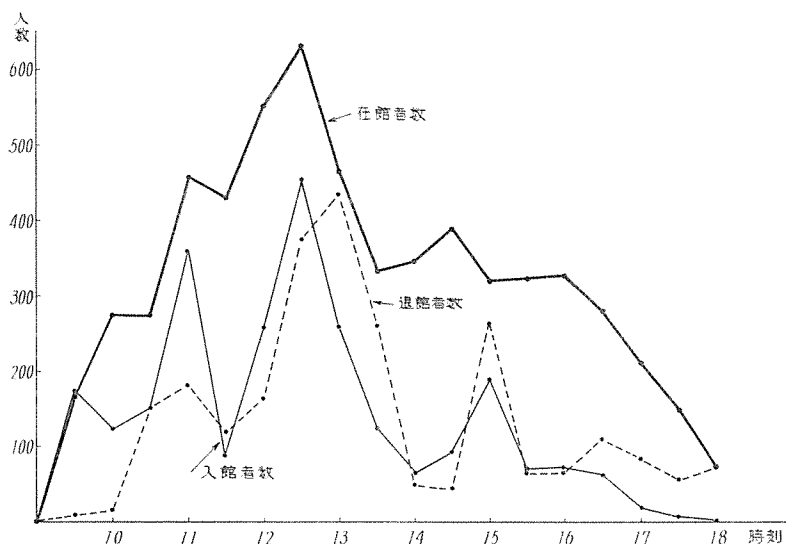
回 数	人 数	%
1 回	313	14.6
2	479	22.0
3	667	30.6
4	323	14.9
5	183	8.4
6以上	208	9.5
計	2,173	100.0

表 5

時 間	人 数	%
30分 以内	268	11.5
30分～1時間	821	36.0
1～2時間	1,043	46.1
2～3時間	99	4.3
3時間以上	48	2.1
計	2,279	100.0

次図は当日の利用者数の推移を時間別に分けたものである。調査は30分毎に区切り，その間の入館者，退館者を表わしたものである。

入館者と退館者は常に交錯しているので，便宜上30分で区切った。



上図から読みとれることは

- (1) 12.00～13.00はすべてがピークを示しており、ラッシュ現象を呈している。席から溢れた利用者は約 100 名に達している。
- (2) 10.30～11.00, 14.30～15.00は午前, 及び午後のピークである。
- (3) 午後の入館者は, 午前と比べて極めて少ない。

国大協大学図書館制度特別委員会に出席して

河村 洋二郎

国大協第2回大学図書館制度特別委員会は9月1日東京大学総合図書館で開催された。委員である岡田総長は生憎学術会議と日が重なり、また宮地図書館長も外国出張中のため、私が総長代理としてこの委員会に出席した。この紙面をかりて簡単に委員会の様子を報告する。

国大協は国立大学における図書館の充実が教育研究上極めて重要な問題であることを認め、この特別委員会を設けた。委員会は図書館問題を専門に検討し、国大協が文部省に意見具申するための資料を整え、原案を作ることを目的としている。現在、国大協図書館特別委員の顔ぶれは次の通りである。委員長：川村智治郎（広島大学学長）、委員：実方正雄（小樽商科大学学長）金倉円照（宮城教育大学学長）細谷恒夫（山形大学学長）実吉純一（東京工業大学学長）藤田健治（お茶の水女子大学学長）藤野清久（福井大学学長）岡田実（大阪大学学長）齊藤利三郎（和歌山大学学長）長谷川万吉（徳島大学学長）田中定（佐賀大学学長）、専門委員：

伊藤四十二（東京大学図書館長）。当日、これら委員に加えて文部省情報図書館課立松課長も会議に出席した。

第2回委員会では会議に先立ち伊藤東大図書館長より東大図書館につき詳細な説明があり、東京大学総合図書館、医学図書館および農学部図書館を見学した。会議は委員長の提案により1. 図書館職員に関する問題、2. 図書館予算に関する問題、3. 図書館活動に関する問題が討議された。討議内容の要旨は次の如くであった。

現在のところ、全国国立大学図書館長会議および学術会議では主として研究図書館についての問題を取り扱っている。故に国大協は教育図書館としての大学図書館の意義を考慮し、この面から図書館の充実をはかるべく努力したい。このため、国立大学図書館の目的、任務など根本問題を明確化する必要がある。また図書館の充実にはまず各学長や文部省が大学図書館の重要性を認識することが必要である。図書館予算、設備の拡充を期すだけでなく、図書館職員を専門職扱いすること、指定参考書制度の充実など当面する諸問題を漸次解決しなければならない。まず、この第一歩として全国国立大学図書館長会議より我が国の大学図書館の現況について資料提出を受け、これにもとづいて重点的かつ具体的な要望書を文部省に提出する。

（歯学部教授・中之島分館長）

産業科学研究所分館について

桐山良一

産研は明年はじめ吹田の新館に移転し、現在の枚方分室も同時に移るので、21部門全部がはじめて同一建物で研究できるようになる。新館の図書分館は前面の2階建の管理棟の2階の東側の半分近くで床面積283.7m²を占める。天井に明り取りのドームがあり、その下に閲覧用の机がおかれる。開架式になるため、東壁側の部分に書架が配置される。南側と北側の窓は全面ガラスで、その外側は約2米のテラスになっている。南側の方は千里ニュータウンが一望に見下ろせるが、工学部の新館が完成すると眼の前にそれが建つことになる。

本分館は制度上、図書分館となっているが、実質は研究図書室である。42年5月現在、約17,500冊の蔵書を保有し、継続雑誌の種類は256種に達する。図書分館の経費のほとんどは研究所の予算でまかなわれ、本年度の所内配分は約450万円、うち図書購入費は約400万円である。そのほか年間約200万円ほどが各部門研究室購入の図書の概略合計額である。分館の年間図書増加冊数は2,000冊をこえている。新館の書架収容能力は数年しかないの、吹田地区に建築予定の学生を対象とする吹田分館の書庫に古いバックナンバーの収納を期待しているしだいである。吹田地区の新しい図書分館が完成の折には、中央事務との連絡、保存図書の管理をその方をお願いし、研究所の方は部局図書室として、研究者、大学院学生の研究にできるだけ便宜がはかれるように努力するつもりである。現在の図書分館は2人の事務職員がいるにすぎないので手不足をいつも感じている。何とかもう1人確保したいとこれも努力中である。

（産研教授・分館長）

■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■

—————国立七大学図書館協議会—第41次—————

42.9.28(木)～29(金) 於 東北大学

出席者：国立七大学館長，部課長，文部省立松情報図書館課長等 協議題はⅠ予算関係として，①7大学にも指定書制度を早期に実施すること，②学生用図書購入費確保の対策，③参考図書(Reference-tools)購入費の予算化，④特別図書費の継続，⑤総合目録作成費について，⑥図書館維持費の増額，⑦製本機械の導入。Ⅱ人事関係として，①図書館職員の増員，②図書館専門職員の処遇，Ⅲ組織機構の問題として，①事務機構の整備，②本館，分館と部局図書室との相互の関係。Ⅳその他として，①蔵書計画，②国立大学に図書館学科を設置すること，③7大学の計算センターを当該大学図書館が利用できるようにすること，などであった。以上の議題のうち，指定書制度の実施については43年度に全国立大学の教養課程の1年次学生を対象に，2億4千万円の予算要求を，図書館職員の増員については主要大学図書館の情報活動を強化するため3ヶ年計画で合計99人の増員要求を文部省議で決定したとのことであった。なを専門課程の学生に対する指定書制度は，その構義内容が短期間に変わりやすく永続性がないなどの理由で慎重に考える必要があるとの文部省の意見であったので，これに対して7大学から専門課程にも指定書制度を必要とする資料を出すことにした。国立大学に図書館学科を置くことについては所属学部，講座の種類，教員組織などについて具体的に研究し，この計画を推進することを申し合わせた。図書館維持費の増額については，文部省でも実状がよくわかっているので実現に努力するとの説明があった。

—————基礎工学部図書委員会—————

42.10.3(火) 1.30p.m.～4.00p.m. 於 中会議室

①昭和43年度学術雑誌の購読 (a)新規購読分和洋18点 (b)現在の中央選択システムでは購読可否の決定が難しいので今後受益者負担(学科単位で購読選択等)に方法を改める。②その他 (a)分館(室)間の相互利用：各分館間で複写業務等を調整し，相互利用の円滑化をはかってほしい。等が提案決定された。

—————理学部図書委員会—————

42.10.5(木) 1.30p.m.～3.15p.m. 於 谷教授室

①昭和43年度学術雑誌の購読について，(a)科学一般誌の選択および決定，洋1点，(学科単位の選択方法ではもれる恐れがある) (b) Chem. Abst. の値上りにもなう学科負担の問題点 (c) Documentation 関係の文献を図書室経費で購読する。②その他 (a)スリッパの廃止，(b)閲覧室での喫煙：現在のまま喫煙室でお願いする。(c)製本時期が各分館で重複しないよう全学的に調整する必要がある。また期間が長がすぎる。等が提案決定された。

■微研図書室移転

—吹田地区へ第1号 冷暖房完備—

阪大の吹田地区移転のトップをきって微研が、近く引っ越すが、微研図書室も、新キャンパス正面玄関前庭北側の2階建建物の1階に移る。(2階は職員食堂) 新図書館は、しばらく中之島分館の一部として運営するが、利用面で独立のUnitとして学内他図書館と相互利用することになる。

建物はカウンターや閲覧席のある南側が総ガラスで、利用者、館員の採光採暖に恵まれている一方、北側は壁と書架で箕面おろしの寒風をさえぎっている。もちろん冷暖房完備で、明るい中にも落ちつきのある図書館である。閲覧席は18席、新刊雑誌はスチール展示架に並べられ、辞書、人名録などのレファレンスブックは窓下書架に並び閲覧席のそばにある。完全開架式の書架部分は、積層2層15,000冊収容可能で、現在の図書室の2,400冊に石神病院寄贈図書3,000冊、Biken Journalのストックを加えても相当余裕がある。

天野所長はじめ微研当局は、将来とも同図書室が中之島分館の一部になることを強く希望している。

■医療技術短期大学部図書室開設

医療技術短大の図書室が、この11月に開設するはこびになった。石橋分院の南山上館を改築した講義棟の一室44m²の部屋に、完全開架式の閲覧室が設けられ。

開設早々なので設備としては、まだまだいたらないけれども、小高い山の上にあるので場所としては、町の騒音から離れて静かで落ちついた環境といえよう。閲覧席は20席、書架4本を備え付けている。新規採用の2名が本館の協力を得て、先に購入した和洋図書1,820冊の整理作業をすまめているので、この号が発行される頃には閲覧用図書として、短大の教官学生の皆さんにお目見えするはずである。なお、本館(豊中図書館)の図書利用についても閲覧券でできるようにしている。今後図書室の蔵書増加、設備の充実等に充分考慮がはからわれることであるから、大いに利用していただきたいものである。

■大阪大学学術雑誌総合目録

—編集に御協力を—

前号で、学術雑誌総合目録の刊行計画をお知らせしましたが、その後も担当者間でたびたび編集方法、収載範囲などについて細部の打ち合せを行ない次のように刊行日程が決まりました。この仕事は非常に困難なものですから、関係者の協力なしには到底満足なものではできかねると思いますので、本誌上を借りて重ねて協力方お願いします。(刊行委員会)

刊行日程：

42年9月末	学部長宛依頼状発送	43年4～6月	編集終了
“ 11月末	各分館原稿締切	“ 7月末	原稿印刷業者渡し
“ 12月末	本館原稿締切	“ 9月末	完成予定

■ 図書館のレファレンス・サービス

近年図書館の姿は著しく変ってきた。戦後、教育改革と共にアメリカの影響を強く受けたわが国の図書館は、単なる図書の倉庫、保管場所から脱皮して図書の効果的利用を中心とする活動へと向っている。利用者が自由に書架に向い、求める図書を直接手にすることができる自由接架式の採用、館外貸出し制限の緩和、図書館間の図書相互利用の普及、文献複写設備の充実等は、図書館の利用中心主義をよく反映しているといえよう。これらはいずれも図書館をよく利用する人には気づいている事であろうが、案外知られていない事柄にレファレンス・サービス (Reference Service) がある。直訳して参考奉仕とも呼ばれるレファレンス・サービスの意図するところは、図書館及び図書の利用にまつわる種々の問題に関して適切な援助または助言を与えることによって、個々の利用者が能率的、効果的に図書館を利用しうることによって、利用者側と図書を結びつけるパイプの役割を果す仕事といえる。具体的には、利用者の求めに応じて、特定の事柄に関する文献の探し方や入手法の指示、特定の事実、データ等の情報の調査と提供、文献利用法の指導等に関与する。本学図書館でもこのレファレンス・サービスの本格的な実施には関心を持っており、医学系の中之島分館ではすでに専門教育を受けた専任職員を配置して積極的にこのサービスを行っている。ここでは上述の業務に加えて、個々の研究者の依頼に応じて特定のテーマに関する文献を調べリストにし、それを依頼者に提供したり、また研究室、研究者グループの求めに応じて文献検索法や各種二次刊行物の利用法を講じたりしている。レファレンス・サービスの活潑化には専門職員の確保、資料の整備、利用者側の関心等の問題が横たわっている。

■■■■■■■■■■ 資料紹介 (1) ■■■■■■■■■■

Bibliothèque Nationale. Catalogue générale des livres imprimés: Auteurs. Paris, Impr. Nat., 1897 フランス国民図書館総合目録 (豊中図書館所蔵)

国立図書館として、フランスでは最も大きい国民図書館 (Bibliothèque Nationale) の冊子目録である。この第1巻が刊行されたのが、1897年のことであるが、今日にいたるまでまだ完成されていない状態である。各巻が刊行されるたびにそれまで図書館に納められた該当部分の資料が収録される。従って巻が多くなるにつれて資料が増大して内容の均一性がなくなるおそれがあるので、第187巻からは収録方針をあらため、1959年までに出版された蔵書に限って収録することになったようである。内容としては文学・哲学・社会科学・自然科学のあらゆる分野にまたがる著者名目録であり、団体著者名による著作、無著名図書、雑誌などは含まれないが書誌的事項が詳細に記入にしている。

I. B. Z.: Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens. New York, Kraus Reprint Corp., 1896—世界雑誌記事索引 (豊中図書館)
1896年ドイツの Dietrich により刊行されたもののリプリント版である。A: Bibliographie der deutschen Zeitschriftenliteratur という多数のドイツ語の主要雑誌、新聞、年鑑、集成などの記事索引と、B: Bibliographie der fremdsprachigen Zeitschriftenliteratur というドイツ語以外の雑誌および一般の著作を扱っているもの及び C: Bibliographie der Regensionen und Referate という書評、書誌学に関するものと三部よりなっている。内容は、ドイツ語の件名標目へ英語、仏語から参照されるようになったもので利用者には便利である。なお、Aは

1896年、Bは1911年、Cは1900年にそれぞれ刊行されたもので、1896年から、1943年までの世界で発行された学術雑誌の論文、書評がアルファベット順に記載され、主題別に詳述されている。

■■■■■■■■■■ 分館だより ■■■■■■■■■■

中之島分館 映画会とステレオコンサート コンクリートとばい煙に囲まれた中之島地区の文化センターとしての役割を果たすため毎月定例の学術映画会とステレオコンサート（第4木曜0.00～1.00p.m.）を開いている。詳細は同館発行NAKATO NEWSに掲載するほか、地区内要所に掲示している。他地区の利用も歓迎 一例として10月の催しをあげる。

学術映画会（第4回） 極低体温法によるフアロー五徴症の根治手術 未来をひらくエレクトロニクス 生命のエネルギー（食肉知識篇）
ステレオコンサート（第14回） ドボルザーク “交響曲第8番ト長調” ケステル指揮 ロンドン交響楽団 チャイコフスキー “イタリヤ奇想曲” バーンステイン指揮 ニューヨーク、フィル

■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■

11月2日(木) 5.00p.m.	米国図書館業務あれこれ一宮地館長と館員の座談会 (中之島分館)
“ 6日(月) 10.30a.m.	近畿地区国公立大学図書館協議会 第36回例会(神戸商科大学)
“ 8日(水)～10日(金)	全国図書館大会 昭和42年度(金沢市)
“ 上旬(予定)	大阪地区大学図書館新聞等の分担保存に関する懇談会 (大阪大学)
“ 中旬(予定)	豊中地区運営委員会(本館)
“ 20日(月)～22日(水)	学術研究図書館研究集会——カリフォルニア大学図書館副館長 エベレット・ムーア教授を講師に迎えて(松下会館第5会議室)
“ 21日(火)～22日(水)	日本図書館研究会研究大会(京都府勤労会館)
“ 27日(月)～29日(水)	世界理工学図書・雑誌展(本館3階閲覧室)
“ 29日(水) 10.00a.m.	近畿地区国立大学図書館連絡会議(大阪外国語大学)
“ 下旬(予定)	附属図書館委員会(本館)
12月7日(木)	国立学校図書専門職員採用第2次試験上級・中級(中之島分館)
“ 12日(火) 1.00p.m.	近畿地区国公立大学図書館研修会 第2回(神戸大学)
昭和43年1月中旬(予定)	近畿地区国公立大学図書館研修企画委員会 第3回 (奈良女子大学)

来訪者 9月25日(月) 広島大学附属図書館事務長 藤田善一